Dark Triadと他者操作方略との関連¹⁾

下 司 忠 大

早稲田大学大学院文学研究科
日本学術振興会

小 塩 真 司

早稲田大学文学学術院

本研究の目的はDark Triad（マキャベリアニズム、自己愛傾向、サイコパシー傾向）と他者操作方略（寺島・小玉，2004）との関連を検討することであった。大学生210名がDark Triad尺度と他者操作方略尺度を含む質問紙に回答を行った。共分散構造分析の結果、マキャベリアニズムとサイコパシー傾向は自己優越的行動操作に加えて、自己卑下的行動操作や各感情操作に対して正の影響を示した。また、自己愛傾向は自己優越的感情操作のみに正の影響が示された。本研究の結果はDark Triad尺度の妥当性を示すとともに、Dark Triadが高い者は自己優越的行動操作だけでなく、自己卑下的行動操作や感情操作を用いる傾向にあることを示すものであった。

キーワード：他者操作，ダークトライアド，マキャベリアニズム，自己愛傾向，サイコパシー傾向

問題と目的

Dark Triadとは、他者に嫌悪感や苦痛を与える行動傾向を特徴とする、互いに正の相関を示す3つのパーソナリティ特性（マキャベリアニズム、自己愛傾向、サイコパシー傾向）を総称したものである（Paulhus & Williams, 2002）。Dark Triadはいずれも、自身の利益のために他者を操作・搾取する傾向を表す他者操作性（manipulation）と関連があることが示されている（Jones & Figueredo, 2013）。しかし、Dark Triadが高い者がどのようにして他者を操作しているのかという点についてはいまだ検討の余地がある。本研究はDark Triadがそれぞれどのような他者操作方略と関連を示すかを検討するものである²⁾。

Dark Triadと他者操作方略

Dark Triadの中でも他者操作性をその中心的な特徴とする概念がマキャベリアニズムである。マキャベリアニズムとは合理的な道徳観を有し、冷笑的に世界を捉えて他者操作的に行動する傾向性を表す特性である（Cristie & Geis, 1970）。Fehr, Samsom, & Paulhus (1992) は実証的知見をまとめたうえで、マキャベリアニズムが高い者の行う他者操作方略は以下の3点が特徴的であるとしている。第1に説得であり、マキャベリアニズムが高い者は他者を操作する際に説得をすることによって、他者の意見や行動を変えさせることが示されている。第2に自己開示であり、自身の情報を開示したり隠したりすることで状況を操っていることが示されている（e.g., Jones, Nickel & Schmidt, 1979）。第3にご機嫌とりであり、競争的な状況

1) 本論文は、2015年度に早稲田大学大学院文学研究科へ提出した修士論文の一部を再分析し、加筆・修正をしたものです。本論文の論文審査に際して有益なご指摘およびご示唆をいただきました査読者の先生方に深く御礼申し上げます。

2) 本研究では他者を操作する傾向性の全体を「他者操作性」と呼称し、他者を操作する仕方や方法に注目して区別された各他者操作性を「他者操作方略」と呼称する。

においては上の立場の者の機嫌をとろうとすることが示されている (e.g., Pandey & Rastogi, 1979)。

これらの研究以後にもマキャベリアニズムと他者操作方略に関しては知見が蓄積されている (Jones & Paulhus, 2009)。Grams & Rogers (1990) は、マキャベリアニズムが高い者は直接的な他者操作方略よりも間接的な方略を好み、他者の情緒に訴えかけて行動を操作するような他者操作方略を用いることを示した。また、Vangelisti, Daly, & Rudnick (1991) は、マキャベリアニズムが高い者は他者に罪悪感を与えるような他者操作方略を用いることを示した。また、相手の心理状態をコントロールして行動を操作するような他者操作方略とも正の関連が示されている (Austin, Farrelly, Black, & Moore, 2007)。

サイコパシー傾向は罪悪感や共感性に乏しく、利己的かつ反社会的な行動をする傾向性を表した特性であり、この特性も他者操作性をその重要な特徴のひとつとしてきた (Hare, 1991)。例えばサイコパシー傾向を測定する代表的な尺度である Self-Report Psychopathy-III (SRP-III; Williams, Paulhus, & Hare, 2007) の下位尺度のひとつには他者操作性が含まれている。

サイコパス (臨床的なサイコパシーの診断を受けた者) における他者操作方略を記述した Babiak & Hare (2006) によれば、サイコパスは操作しやすい相手を見極め、評価したうえで、効果的なメッセージを送ることで支配関係を築き、その関係を維持しようとするのが指摘されている。また、Stout (2005) はサイコパスが他者操作する際の特徴として、表面的な魅力、口達者、空涙、罪悪感を与える、同情を誘うことを挙げている。実証的には、サイコパシー傾向は前述のマキャベリアニズムと同様に相手の心理状態をコントロールして行動を操作するような他者操作方略と正の関連を示している (Grieve & Mahar, 2010)。

自己愛傾向とは自己を過大評価して主導的にふるまい、誇大感を維持しようとする自己中心的な

傾向性を表した概念である (Raskin & Hall, 1979)。DSM-5の自己愛性パーソナリティ障害の定義では、他者操作性が特徴に含まれている (American Psychiatric Association, 2013)。実証的にも、自己愛傾向と他者操作性との間に正の相関があることが確かめられている (小西・田中, 2010; Thomas, Wright, Lukowitsky, Donnellan, & Hopwood, 2012)。また、SRP-IIIの下位尺度である他者操作性との関連も高い正の相関が示されている (Jones & Figueredo, 2013)。自己愛傾向が高い者の他者操作方略に関して、McHoskey (1995) は自己愛傾向とマキャベリアニズムは他者操作性において類似していることを指摘している。ただし、自己愛傾向が高い者の他者操作方略についての研究はあまり蓄積がない。

前述までの先行研究から、Dark Triadの各特性が共通して関連する他者操作方略としては、他者との関係性や心理状態を考慮したうえで支配的に他者を操作する方略が考えられる。しかし、Dark Triadの各特性は他の2変数を統制したうえでも他者操作方略との間に関連を示すことが明らかになっており (e.g., Jonason & Webster, 2012)、それぞれ異なる他者操作方略とも関連を示すことが示唆される (Furnham, Richards, & Paulhus, 2013)。例えば Jonason & Webster (2012) は、Dark Triadの他の2変数を統制したうえで、Dark Triadと他者操作方略との関連を検討した。その結果、マキャベリアニズムは強硬手段、お世辞、誘惑と正の関連を、自己愛傾向は取り入り、互惠的手段、自己非難、他者との比較と正の関連を示し、サイコパシー傾向は無理強いと正の関連を示していた。また、Jonason, Slomski, & Partyka (2012) はDark Triadと職場における同僚への他者操作方略との関連を検討した。他者操作方略としてはソフトな方略 (操作対象の人物がその行動をすることに納得させるような方略) とハードな方略 (操作対象の人物に強制的にその行動をさせるような方略) の2つの方略が対象となった。そ

の結果、Dark Triadの他の2変数を統制した時、マキャベリアニズムはソフトな方略と、ハードな方略の両方略と正の関連を示した。その一方で、自己愛傾向はソフトな方略のみと正の関連を示し、サイコパシー傾向はハードな方略のみと正の関連を示した (Jonason et al., 2012)。

寺島・小玉 (2004) の他者操作方略のモデル

Dark Triadと他者操作方略との関連を報告した従来の知見では、対象となる他者操作方略としては主に相手より上の立場からの他者操作や、他者の行動を操作する方略に焦点があてられてきた。その一方で、寺島・小玉 (2004) は高圧的な立場から他者の行動を操作するという方略では捉えきれない他者操作方略があることを指摘し、そのモデルを提唱した。寺島・小玉 (2004) のモデルに特徴的な点が2点ある。1点目が、従来の他者操作方略が相手より上の立場からの操作であるのに対して、他者からのケアを引き出すような下の立場からの操作 (e.g., 弱いフリをする, 弱いことを強調する) も想定している点である。2点目が、他者の行動を操作する方略だけでなく、他者の感情を操作する方略 (e.g., 優れていると思わせる, 同情を引く) も想定している点である³⁾。

寺島・小玉 (2004) は以上の方略をまとめ、他者操作方略を、他者の行動の操作と他者の感情の操作の軸と、高圧的に要求する自己優越的操作と他者からのケアを引き出す自己卑下の操作の軸の2軸で表し、モデル化した。このモデルにおいて、他者操作方略は各軸の組み合わせで自己優越的行動操作、自己優越的感情操作、自己卑下の行動操作、自己卑下の感情操作で構成される。自己優越

的行動操作に比べて自己卑下の行動操作や各感情操作はそれぞれ異なる機能を有することが示唆されている (寺島・小玉, 2006, 2007, 2008)。例えば、寺島・小玉 (2006) は精神的健康、抗ストレス認知傾向と他者操作方略との関連を検討した結果、行動操作を行う者は身体的症状が高く、感情操作を行う者は不安や不眠が高いことが示された。また、自己優越的行動操作を行う者は信頼感・率直さが高く、自己卑下の行動操作が高い者は不屈さが高いことが示された。

本研究の問題と目的

自己卑下の行動操作や各感情操作が自己優越的な行動操作とは異なる機能を有することを踏まえると、Dark Triadが高い者の他者操作を検討するうえでこれらの他者操作に着目することも重要であると考えられる。しかし、前述したようにDark Triadと他者操作方略との関連を検討した報告では寺島・小玉 (2004) で指摘されたような自己卑下の行動操作や各感情操作はあまり検討されていない。

しかし、Dark Triadは自己卑下の行動操作や各感情操作とも関連があると考えられる。とりわけ自己愛傾向はその概念内容に自尊感情を高める傾向性を含むものであり (e.g., Rhodewalt, 2001), 自己優越的感情操作と関連が示されることが考えられる。また、先行研究においてマキャベリアニズムは社会的評判を高めようとすることが示唆されており (Bereczkei, Birkas, & Kerekes, 2010), 他者の行動の操作だけでなく感情の操作とも正の関連を示す可能性がある。また、マキャベリアニズムやサイコパシー傾向が高い者は罪悪感を与えるような他者操作方略と関連が示されており (Grieve & Mahar, 2010; Vangelisti et al., 1991), これらの特性は自己卑下の行動操作と正の関連を示すことが考えられる。

そこで本研究では、寺島・小玉 (2004) による他者操作方略のモデルに基づき、Dark Triadの各特性と他者操作方略との関連を検討することを目

3) 寺島・小玉 (2004) の言及する「感情の操作」は“emotional manipulation” (Austin et al., 2007) とは指し示す概念が異なる。「感情の操作」が操作者に対する評価自体を操作することを目的とするのに対して、“emotional manipulation” は他者の行動を操作することを目的として、被操作者に情動的に揺さぶりをかけるような方略を指す概念である (Austin et al., 2007)。

Figure 1 Dark Triadから他者操作方略への影響のモデル図

的とする。それぞれの概念定義を鑑みると、マキャベリアニズムとサイコパシー傾向は特に自己優越的行動操作との概念上の重なりが大きく、自己愛傾向は特に自己優越的感情操作との概念上の重なりが大きいことが考えられる。このことから、これらの関連を示すことで、本研究で用いるDark Triad尺度の妥当性を支持する知見が得られると考えられる。その一方で、Dark Triadとその他の感情操作や自己卑下的行動操作との関連からは、これまでほとんど注目されていなかったDark Triadの他者操作方略の傾向性が明らかになると考えられる。なお、分析に際しては、Dark Triadの各特性が正の相関関係にあることや(Paulhus & Williams, 2002), 4つの他者操作方略が正の相関関係にあることから(寺島・小玉, 2004), これらの相関を考慮し、Dark Triadの各特性から他者操作方略にパスを引き、他者操作方略の誤差間に共分散を仮定するモデル(Figure 1)に対して共分散構造分析を用いて検討を行う。

方 法

手続きと分析対象者

大学生210名を対象に集団記入法による質問紙調査を行った。この内、下記尺度項目の全項目に

欠損のない202名(男性65名, 女性132名, 不明5名)を分析対象者とした。平均年齢は19.83歳($SD=1.14$)であった。

使用尺度

日本語版Short Dark Triad (SD3-J) Dark Triadを測定するために、Dark Triadの3特性を簡便に測定する尺度であるSD3-J(下司・小塩, 2017)を用いた。SD3-JはJones & Paulhus (2014)によって作成されたShort Dark Triadの日本語版尺度であり、各次元9項目、全27項目で構成される尺度である(項目例: マキャベリアニズム「将来その人が自分の役に立つかもしれないので、人との直接の争いは避けるようにしている」、自己愛傾向「私は自分が受けるに値する尊敬を集めるべき人間だ」、サイコパシー傾向「私は他人からよく手に負えないと言われる」)。SD3-Jについては5件法で回答を求めた。

他者操作方略尺度 他者操作方略を測定するために、寺島・小玉(2004)のモデルに基づいて作成された他者操作方略尺度(寺島・小玉, 2004)を用いた。他者操作方略尺度は自己優越的感情操作6項目(項目例「ほめてもらおうとして自分の成功した話を大げさに言う」)、自己優越的行動操作5項目(項目例「ことわりなくくさせようとし

Table 1 記述統計量と相関係数

	1	2	3	4	5	6	7	M (SD)
1. マキャベリアニズム	(.74)							3.40 (0.57)
2. 自己愛傾向	.06	(.73)						2.41 (0.55)
3. サイコパシー傾向	.21**	.32***	(.67)					2.47 (0.56)
4. 自己優越的感情操作	.36***	.25***	.31***	(.88)				3.13 (1.00)
5. 自己卑下的感情操作	.39***	.09	.19**	.73***	(.85)			2.99 (0.98)
6. 自己優越的行動操作	.47***	.11	.34***	.61***	.64***	(.82)		2.60 (0.93)
7. 自己卑下的行動操作	.36***	.07	.25***	.60***	.72***	.72***	(.85)	2.80 (0.96)

注. 相関表の括弧内の値は α 係数を表す

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$

Table 2 Dark Triadから他者操作方略への影響

	自己優越的行動操作			自己卑下的行動操作		
	β	95%CI	p	β	95%CI	p
マキャベリアニズム	.41	[.29, .53]	<.000	.32	[.19, .45]	<.000
自己愛傾向	.01	[-.11, .14]	.833	-.01	[-.14, .13]	.910
サイコパシー傾向	.25	[.12, .37]	<.000	.19	[.05, .32]	<.000

	自己優越的感情操作			自己卑下的感情操作		
	β	95%CI	p	β	95%CI	p
マキャベリアニズム	.31	[.18, .43]	<.000	.36	[.23, .49]	<.000
自己愛傾向	.17	[.04, .30]	.010	.03	[-.10, .17]	.613
サイコパシー傾向	.19	[.06, .32]	.005	.11	[-.03, .24]	.126

て都合がよいことを確認した後に頼み事をする」), 自己卑下的感情操作5項目(項目例「相手に「そんなことないよ」と否定してもらおうとして自分を卑下する」), 自己卑下的行動操作5項目(項目例「相手に仕事を代わってもらおうとして調子悪そうふりをする」)の4尺度で構成される。他者操作方略尺度については6件法で回答を求めた。

結 果

各尺度の記述統計量, α 係数, 尺度間の相関係数をTable 1に示した。 α 係数がいずれも許容範囲の値を示したことを確認したうえで, 各尺度の得点について項目平均を用いて算出し, 尺度間の相関係数を算出した。マキャベリアニズムとサイコパシー傾向はすべての他者操作方略と有意な正の相関を示し, 自己愛傾向は自己優越的行動操作

のみと有意な正の相関を示した。下位尺度間の相関は, 自己愛傾向とマキャベリアニズムとの相関以外で有意な正の相関が示された。

Dark Triadの各特性が他の2特性を統制したうえで他者操作方略とどのように関連するのかを検討するために, 共分散構造分析を用いて検討を行った。Dark Triadの3特性から他者操作方略の4方略に対するパスを引き, Dark Triadの特性間と他者操作方略の誤差に共分散を仮定する飽和モデル(Figure 1)を設定し, 推定を行った。その結果をTable 2に示す。マキャベリアニズムはすべての他者操作方略に対して有意な正の影響を示し, サイコパシー傾向は自己優越的行動操作, 自己優越的感情操作, 自己卑下的行動操作に有意な正の影響を示した。自己愛傾向は自己優越的感情操作に有意な正の影響を示した。Dark Triadおよび誤差間の相関はすべて正の相関を示した(Dark

Triad間： $rs=.12-.43$, 誤差間： $rs=.60-.82$ ）。

考 察

Dark Triadの各特性は様々な他者操作方略と関連することが確かめられてきた (Jonason et al., 2012; Jonason & Webster, 2012)。従来のDark Triadと他者操作方略の研究では主に他者よりも優位な立場からの他者の行動の操作 (i.e., 自己優越的行動操作; 寺島・小玉, 2004) に焦点があてられてきており, 自己卑下的行動操作や各感情操作との関連はあまり検討されていなかった。本研究の目的は, マキャベリアニズム, サイコパシー傾向から自己優越的行動操作への正の影響, および自己愛傾向から自己優越的感情操作への正の影響を示すことでそのDark Triad尺度の妥当性を示すとともに, Dark Triadの各特性が他者の感情の操作やケアを引き出すような行動の操作に対して正の影響を示すかどうかを検討することであった。

共分散構造分析の結果から, マキャベリアニズムとサイコパシー傾向は自己優越的行動操作に対して正の影響を, 自己愛傾向は自己優越的感情操作に対して正の影響を示し, 本研究で用いたDark Triad尺度であるSD3-Jの収束的妥当性が支持された。そのうえで, マキャベリアニズムは自己卑下的行動操作や自己優越的感情操作, 自己卑下的感情操作に対して正の影響を示した⁴⁾。また, サイコパシー傾向についても同様に自己卑下的行動操作や自己優越的感情操作に対して正の影響を示した。ただし, 自己卑下的感情操作に対して有

意な正の影響は示されなかった。自己愛傾向に関しては, その他の他者操作方略に対して有意な影響は示されなかった。

マキャベリアニズムは合理性を特徴とする概念であり, 自身の目的を達成するうえであらゆる手段を講じる点にその特徴がある。それを支持するように従来の知見では, マキャベリアニズムが高い者はハードな方略とソフトな方略を使って他者を操作していることが示されていた (Jonason & Webster, 2012)。本研究の結果から, マキャベリアニズムが高い者は, それらの方略に加えて自己の劣位性を主張するような方略を用いていることが示され, 目的を達成するうえであらゆる策を講じていることが示唆された。

また, これまでの研究では, Dark Triadの他者の行動を操作する傾向性に焦点があてられてきたが (e.g., Jonason & Webster, 2012), 本研究の結果からは, マキャベリアニズムが高い者が用いる他者操作方略には自分の評価を好意的に仕向けるような感情操作の方略も含まれていることが明らかにされ, その好意的に仕向ける方略としては自己の優位性を主張する方略と劣位性を主張する方略の両方略があることが示された。マキャベリアニズムの概念内容を踏まえると, このような感情操作についても自身の目的を達成するために行われる手段のひとつとしての他者操作であると考えられる。

先行研究において, サイコパシー傾向が高い者は強要や暴力などのハードな方略を使って他者を操作していることが示されていた (Jonason et al., 2012)。本研究の結果は, マキャベリアニズムと同様にハードな方略だけでなく自己の劣位性を主張するような行動操作への影響を示した点で, サイコパシー傾向が高い者の他者操作方略についてこれまでにない側面を示すものであった。臨臨床的な知見ではサイコパスはその共感性の低さから自身が追い込まれた際に空涙や同情を引くような操作方略を用いることが指摘されており (Stout,

4) Dark Triadには他者操作方略との間に概念的な重複があることが考えられる。ただし, 本研究で用いられたSD3-Jのマキャベリアニズムやサイコパシー傾向に含まれる他者操作に該当する項目は「自分の思い通りになるように, 賢く周りの人々を扱いたい」や「私は誰に何を言っても, 欲しいものを手に入れる」といったものであり, 寺島・小玉 (2004) の他者操作方略尺度の項目 (例えば, 「自分が気のすまない仕事をやってもらおうとして過去に相手に着せた恩をもちだす」) との関連は, 表面的な項目上の類似ではないと考えられる。

2005), この点がサイコパシー傾向に特徴的な自己卑下的行動操作であることが考えられる。

また、従来の知見ではサイコパシー傾向は主に他者の行動を強制的に支配するような他者操作と関連が示されていた (Jonason et al., 2012; Jonason & Webster, 2012)。しかし、本研究の結果から、他者の感情についても優越的に操作することが示された。この点について、Babiak & Hare (2006) は、サイコパスはその共感性の低さと罪悪感の欠如から他者を平然と騙すことができ、他者と出会う場面や出会った後の操作段階においてうまく印象をコントロールして支配関係を築いていることを指摘している。このような他者操作がサイコパシー傾向に特徴的な自己優越的感情操作であることが考えられるものの、この点についてはマキャベリアニズムとの差異は不明瞭であり、今後の研究においてさらに検討する必要がある。

本研究におけるマキャベリアニズムの他者操作方略への影響の結果は、寺島・小玉 (2004) における理論的指摘と一致していない。寺島・小玉 (2004) はマキャベリアニズムの概念内容には自己優越的な他者操作方略は含まれている一方で、自己卑下的な他者操作は含まれていない (すなわち、自己卑下的な他者操作とは無関連である) ことを指摘している。この指摘と本研究の結果の不一致については、マキャベリアニズムの概念の差異に起因することが考えられる。寺島・小玉 (2004) で議論されているマキャベリアニズムの概念は主に Mach-IV で測定される概念 (i.e., 冷酷、利己的で現実主義的な他者操作傾向; Christie & Geis, 1970) が想定されている。その一方で、本研究で用いられた SD3 で測定されるマキャベリアニズムの概念は Mach-IV で測定される概念に加えて計画性や戦略性までを含んだ構成概念である (Jones & Paulhus, 2014)。このような概念上の違いが本研究の結果の差異に反映されたことが考えられる。

本研究では Dark Triad と寺島・小玉 (2004) に

よる他者操作方略との関連を検討し、本研究で用いられた Dark Triad 尺度の妥当性を示すとともに、マキャベリアニズムやサイコパシー傾向が自己卑下的行動操作や各感情操作に対して正の影響を示すことが明らかにされた。ただし、本研究では Dark Triad の各特性における自己卑下的行動操作および各感情操作の違いや、Dark Triad が高い者の他者操作方略の目的や背景については検討することができなかった。また、本研究で用いられた他者操作尺度の因子間相関は比較的高く、その因子同士の弁別性についても留意する必要がある。今後の研究においては他者操作方略の目的や動機づけを併せて測定して媒介変数として設定することや、より詳細に他者操作方略を測定することで、さらに検討を進めていく必要がある。

引用文献

- American Psychiatric Association (2013). *Diagnostic and statistical manual of mental disorders* (5th ed.). Washington, D.C.: American Psychiatric Publishing.
- Austin, E. J., Farrelly, D., Black, C., & Moore, H. (2007). Emotional intelligence, Machiavellianism and emotional manipulation: Does EI have a dark side? *Personality and Individual Differences*, 43, 179–189.
- Babiak, P., & Hare, R. D. (2006). *Snakes in suits: When psychopaths go to work*. New York: HarperCollins.
- Bereczkei, T., Birkas, B., & Kerekes, Z. (2010). The presence of others, prosocial traits, Machiavellism: A personality×situation approach. *Social Psychology*, 41, 238–245.
- Christie, R., & Geis, F. L. (1970). *Studies in Machiavellianism*. New York: Academic Press.
- Fehr, B., Samsom, D., & Paulhus, D. L. (1992). The construct of Machiavellianism: Twenty years later. In C. D. Spielberger & J. N. Butcher (Eds.), *Advances in personality assessment* (Vol. 9, pp. 77–116). Hillsdale, N. J.: L. Erlbaum Associates.
- Furnham, A., Richards, S. C., & Paulhus, D. L. (2013). The Dark Triad of personality: A 10 year review. *Social and Personality Psychology Compass*, 7, 199–216.
- Grams, W. C., & Rogers, R. W. (1990). Power and Wpersonality: Effects of Machiavellianism, need for

- approval, and motivation on use of influence tactics. *Journal of General Psychology*, 117, 71–82.
- Grieve, R., & Mahar, D. (2010). The emotional manipulation–psychopathy nexus: Relationships with emotional intelligence, alexithymia and ethical position. *Personality and Individual Differences*, 48, 945–950.
- Hare, R. D. (1991). *The Hare psychopathy checklist-revised*. Toronto: Multi-Health Systems.
- Jonason, P. K., & Webster, G. D. (2012). A protean approach to social influence: Dark Triad personalities and social influence tactics. *Personality and Individual Differences*, 52, 521–526.
- Jonason, P. K., Slomski, S., & Partyka, J. (2012). The Dark Triad at work: How toxic employees get their way. *Personality and Individual Differences*, 52, 449–453.
- Jones, D. N., & Figueredo, A. J. (2013). The core of darkness: Uncovering the heart of the Dark Triad. *European Journal of Personality*, 27, 521–531.
- Jones, D. N., & Paulhus, D. L. (2009). Machiavellianism. In M. R. Leary & R. H. Hoyle (Eds.), *Handbook of individual differences in social behavior* (pp. 93–108). New York: Guilford Press.
- Jones, D. N., & Paulhus, D. L. (2014). Introducing the short dark triad (SD3): A brief measure of dark personality traits. *Assessment*, 21, 28–41.
- Jones, W. H., Nickel, T. W., & Schmidt, A. (1979). Machiavellianism and self-disclosure. *The Journal of Psychology*, 102, 33–41.
- 小西瑞穂・田中祐衣 (2010). 自己愛人格傾向の高い者の他者操作行動が友人からの評価に与える影響 東海学院大学紀要, 4, 167–172.
- McHoskey, J. W. (1995). Narcissism and machiavellianism. *Psychological Reports*, 77, 755–759.
- Pandey, J., & Rastogi, R. (1979). Machiavellianism and ingratiation. *The Journal of Social Psychology*, 108, 221–225.
- Paulhus, D. L., & Williams, K. M. (2002). The dark triad of personality: Narcissism, Machiavellianism, and psychopathy. *Journal of Research in Personality*, 36, 556–563.
- Raskin, R. N., & Hall, C. S. (1979). A narcissistic personality inventory. *Psychological Reports*, 45, 590.
- Rhodewalt, F. (2001). The social mind of the narcissist: Cognitive and motivational aspects of interpersonal self-construction. In J. P. Forgas, K. D. Williams, & L. Wheeler (Eds.), *The social mind: Cognitive and motivational aspects of interpersonal behavior* (pp. 177–198). Cambridge: Cambridge University Press.
- 下司忠大・小塩真司 (2017). 日本語版 Short Dark Triad (SD3-J) の作成 パーソナリティ研究, 26, 12–22.
- Stout, M. (2005). *The sociopath next door: The ruthless versus the rest of us*. New York: Broadway Books.
- 寺島 瞳・小玉正博 (2004). 他者操作方略尺度作成の試み 筑波大学心理学研究, 28, 89–95.
- 寺島 瞳・小玉正博 (2006). 他者操作方略に至るまでの過程の検討——認知傾向と精神的健康から—— 筑波大学心理学研究, 32, 101–108.
- 寺島 瞳・小玉正博 (2007). 他者を操作することに影響を及ぼす個人内要因の検討 パーソナリティ研究, 15, 313–322.
- 寺島 瞳・小玉正博 (2008). 他者を操作する方略と心身の健康との関連 健康心理学研究, 21, 39–46.
- Thomas, K. M., Wright, A. G., Lukowitsky, M. R., Donnellan, M. B., & Hopwood, C. J. (2012). Evidence for the criterion validity and clinical utility of the Pathological Narcissism Inventory. *Assessment*, 19, 135–145.
- Vangelisti, A. L., Daly, J. A., & Rudnick, J. (1991). Making people feel guilty in conversations: Techniques and correlates. *Human Communication Research*, 18, 3–39.
- Williams, K. M., Paulhus, D. L., & Hare, R. D. (2007). Capturing the four-factor structure of psychopathy in college students via self-report. *Journal of Personality Assessment*, 88, 205–219.

The Relationships between the Dark Triad and Manipulation Strategies

Tadahiro SHIMOTSUKASA^{1,2} and Atsushi OSHIO³

¹Graduate School of Letters, Arts and Sciences, Waseda University

²Japan Society for the Promotion of Science

³Faculty of Letters, Arts and Sciences, Waseda University

THE JAPANESE JOURNAL OF PERSONALITY 2019, Vol. 28 No. 2, 119–127

The purpose of the present research was to examine the relationship between Dark Triad (Machiavellianism, Narcissism, and Psychopathy) and manipulation strategies (Terashima & Kodama, 2004). Participants were 210 Japanese undergraduates who completed the Short Dark Triad (SD3-J) and the scale of manipulation strategies. Structural equation modeling showed that Machiavellianism and Psychopathy were positively affected by manipulating others from both superior and inferior positions, as well as by manipulation of feelings. Narcissism had a positive effect on the manipulation of feelings from a superior position. The results indicate that there is evidence of the validity of the SD3-J and people who have high Dark Triad tendencies tend to use not only the manipulation of behavior from the superior position, but also the manipulation of feelings from the inferior position.

Key words: manipulation, Dark Triad, Machiavellianism, narcissism, psychopathy